



暖かい心 広い視野 行動力 『県民ひろば号外』

# もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者  
 大分県議会・県民クラブ  
**守永 信幸**  
 〒870-0022  
 大分市大手町3-2-9  
 TEL 097-534-2021  
 FAX 097-536-0595

## めざせ健康寿命日本一おおいた

2017年第1回定例県議会が、2月27日から3月29日までの日程で開催されました。

今回は、主に2017年度当初予算編成に関する審議が中心でしたが、2018年度に開催される国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭、2019年度のラグビーワールドカップなどの大規模イベントの準備に向けた取り組みも議論されました。

また、私は一般質問の機会を与えて頂きました。2ページから主な質問項目の概要を掲載します。



▲一般質問する守永信幸

### 健康で笑顔の暮らし

今議会で議員提出議案として「健康寿命日本一おおいた県民運動推進条例」が可決、施行されました。

この条例は、県民の皆さんが生涯にわたって生き活きと安心して暮らしていけるように、健康づくりを意識することを呼びかけ施策の展開を図り、誰もが健康的に暮らせる大分県とするためのものです。

既に大分県長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」でも、健康寿命日本一をめざす取り組みとして、健康づくりのための県民運動の展開や生活習慣病対策、健康を支える社会環境の整備、介護予防の推進などをはじめとする、誰もが生きがいを感じながら笑顔で暮らしていける大分県づくりに取り組んでいます。今回の条例はこれらの取り組みを強く後押しするものにならなければなりません。

### 歳を重ねても心豊かに

大分県民の平均寿命は2010年の厚生労働省の調査結果では男性で80.06歳、女性で86.91歳ですが、日常生活を制限なく暮らせる年齢、いわゆる健康寿命は、それぞれ約10年から14年短いようです。

高齢者比率が高まる中で、医療費などの社会保障費の増大も懸念されています。より永く健康に暮らせることは、ご本人の負担が解消されるだけでなく、社会的な負担の軽減にもつながっていきます。お互いに食生活のあり方や、身体を動かして運動機能を維持するなど生活習慣の改善を心がけると共に、健康診断を受けて健康状態を把握することを心がけましょう。そして、年を重ねながらも地域の中で何らかの役割を担い、健康に過ごすことが心豊かな暮らしにつながるはず。何よりも地域を明るくすることになると考えます。

私の所属する県議会の会派「県民クラブ」の団長である久原和弘議員が、今回の一般質問で、元気に歳を重ねる方々に、お礼の気持ちを込めてプレゼントを贈る施策が講じられないものかと質問しました。京都府では、そうした事業が実施されており、満90歳を迎えたときに過去10年間介護保険サービスの利用実績が無い方に3万3千円の商品券を差し上げているそうです。私も、人生の先輩方に対し、ありがとうの気持ちを伝えるような事業があっても良いのではないかと思うところです。



◀校区対抗のグラウンドゴルフ大会。高齢者も大活躍です。



▶お元気な皆さんが集まる地区敬老会

# 『暮らしの安心のために』

今定例県議会で私は、一般質問の機会を頂きました。「生協と行政との連携」、「農林水産業への若者の就業」、「JR特急列車のワンマン運転」、「公衆電話のあり方」、「子育て支援制度の周知方法」、「大分動物愛護センター基本構想」、「県職員の超過勤務」などについて質問しました。

この活動報告では、私が一般質問した課題のいくつかについて触れさせていただきます。なお、質疑応答の様相については、大分県議会のホームページの「インターネット中継」で録画をご覧ください。

## 生協との連携について

守永：昨年11月に協同組合が、ユネスコ無形文化遺産に登録された。協同組合の一つに生活協同組合がある。生協は、会員相互の助け合いにより自発的に組織する非営利団体で、大分県下では13組織、延べ55万人が参加している。



コープ大分の移動販売車。行く先々で馴染みのお客さんの声を聴きながら対応している。



近年は、災害発生時の物資供給や地域の見守りなど、生協と行政とで協定を結び、様々な地域課題に取り組んでいる。

生協と大分県との連携のあり方について知事の考えを伺う。

広瀬知事：生協は、草の根的なネットワークで地域に根ざした活動を行っていることから、県政を推進する上で大切なパートナーとして消費者行政や男女共同参画、福祉といった様々な分野で連携している。

昨年4月の熊本地震では県内被災地への直接支援はもと



▲広瀬知事

より、災害ボランティアセンターの活動に必要な資機材の運搬にも協力頂いた。

今後も、生協のネットワークを活かした公共的活動へのさらなる参加、連携を期待しており、高齢者の見守りや声かけ、食や健康づくりに関する情報発信、地元の生産者と連携した農林水産物や加工品の販路拡大などが考えられる。

## 特急列車のワンマン運転について



2016年8月20日に佐伯市で実施された避難訓練。この時は手すり付き避難はしごも使用された。

守永：JR九州は今春のダイヤ改正で、大分ー宮崎空港間の4両編成特急列車の一部でワンマン運転を始めた。

以前JR九州の災害対策と列車のワンマン運転の課題について質問したが、今回の特急ワンマン運転実施について、県と関係機関との連携協議の場で議論は尽くされたのか。ワンマン運転で災害や事故などの異常に遭遇した際、運転士が的確に判断できる環境が必要。特急列車のワンマン運転については、今後JR九州と、運行の在り方について検証協議を続けて頂きたいが、企画振興部長の考えを伺う。

JR九州の運転士や車掌にも危機感を感じている方が多い。駅も無人化が進み、助けを求めて列車を停止させて対処するにも限界がある。万が一運転士に支障が生じた場合は、乗客には何も出来ない。安全重視で、協議して頂きたい。

広瀬企画振興部長：JR九州からは宮崎県と同時期に、特急にちりんでのワンマン運転に関する連絡があった。12月21日にJR九州本社に対し趣旨や安全性確保策の確認、慎重な検討と実施の場合は利用者の安全確保策の徹底を要望した。



講じられる安全対策等については理解しているが、県としては、今後も運行状況を注視し、利用者の声にも留意して、必要に応じJR九州に適切な対応を求める。

### おおいた動物愛護センターについて

守永：県は、昨年12月に「おおいた動物愛護センター（仮称）基本構想」を公表した。2年後に施設が完成予定だが、ソフト面の充実が大変重要。動物愛護行政の推進体制を一層構築して頂きたい。

(1) 命の教育について、どのように推進していくのか。(2) ボランティアや関係団体との連携は。(3) このセンターと野生動物保護の連携は、などを伺う。

工藤教育長：生命及び自然を尊重する精神を養うことは学校教育の中でも極めて重要。生き物の命をいただき自分の命が存在するという理解を深めるために、実際の体験学習として畜産公社や動物愛護センターで命の大切さを実感させることも重要だと考える。

柴田生活環境部長：新しい動物愛護拠点施設では、しつけ方・飼い方教室の拡充、常時見学・譲渡できる体制整備等の機能強化を計画しており、ボランティア団体や獣医師会に大きな役割を担っていただく。ボランティア等との連携をより一層進める。

尾野農林水産部長：犬や猫のペットを対象とする施設で、野生鳥獣の保護・治療を行うには感染症の問題などがある。そこで愛護センターでは「野生動物と人の関わり方の啓発・展示」を行うよう基本構想に盛り込んだ。

野生動物保護に関する獣医師の負担軽減策とし



動物愛護センター建設予定地  
(大分市廻栖野)



て、委託料を増額し迅速に保護・搬送できる体制整備と治療後野生に戻すまでの飼養ボランティア登録者の拡大を図っていく。

### 農林水産業への若者の就業

守永：若者の雇用対策として、首都圏のような企業の集積は困難であり、農林水産業の収益性が確保できれば、若者の定住や就業が期待できる。大分県では県外からの就業者も増加傾向。若者の第一次産業への就業支援策は如何に。集落営農組織の担い手確保にも努力をお願いしたい。

尾野農林水産部長：新規就業に際しての課題の第一は就業までの準備。技術習得のための研修体制の充実、就業に向けた計画策定や就職斡旋、農地や住居の紹介などきめ細かな支援を行っている。また就業後の早期経営安定に向け普及指導員や関係機関、生産者が一体となって指導している。

### 公衆電話の維持と子どもの安全

守永：公衆電話を探すことが困難になってきた。公衆電話は、市街地では500m四方に1台、郊外では1km四方に1台の設置数が維持されているとのこと。

心配なのは子ども達。通学時の子どもの安全確保についてはどう考えているのか。



大分駅の北口。電話が何処にあるかお判りだろうか。

柴田生活環境部長：通学路を中心に事業所や一般民家と連携して「困ったときはいつでもおいで」ステッカー等を掲げる「こども連絡所」が県下に約26,000カ所設置されている。それらと併せて、防犯対策を講じるなど、地域の実情に応じた安全・安心の確保に努める。

### 一般質問を終えて

今回、「公衆電話の維持と子どもの安全」も含めて、安心・安全に関する課題を質問しましたが、地域の高齢化の進展により様々な面で不安を感じることが多々あるのではないのでしょうか。不安なことを放置せずに、まずは周りの誰かに相談して頂きたいと思います。自分だけの課題ではないとなれば、地域の課題として地域で解決に向け取り組んでいけるはずです。私も、解決に向けたお手伝いをさせていただきます。

# 古代の大分を知る拠点

## 芸館跡に『県立埋蔵文化財センター』オープン

本年度から芸術会館跡（大分市牧緑町）に、大分県立埋蔵文化財センターが移転。これまでよりも収蔵機能や展示機能、学習機能を拡充して再スタートを切ります。

4月22日には開館記念式典も予定されていますが、展示機能としては、旧石器時代から江戸時代までの歴史を大分県で発掘された埋蔵文化財で学ぶ「豊の国考古館」と、大友氏関係の考古資料を展示する「BVNGO（ぶんご）大友資料館」がセンター内に設置されます。これらの展示スペースは、1,040㎡用意されており、全国的にもトップクラスの展示機能を持っています。

「BVNGO大友資料館」では、早速4月22日から6月25日まで、開館記念企画展「大友氏の栄華



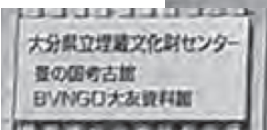
▲大分県で発掘された土器が壁一面に並ぶ姿は圧巻です。

～宗麟を巡る7つの鍵～として、出土品や美術品・歴史資料等を展示し、戦国大名大友氏の最盛期を築いた「宗麟」の実像に迫る企画展が開催されます。

また、発掘遺物の整理作業の様子が見学できたり、土器作りや勾玉作りなどの体験学習ができる歴史体験学習館なども設けられます。体験学習の申し込みは、当日受付で申し込みれば実費で受講できます。

今後小中学校の児童生徒が、大分県の風土で太古からどのような生活が営まれてきたかを感じながら学習できる環境ができたわけです。これらの機能を活用して、歴史を興味深く感じ取ることができる学習活動に取り組んで頂きたいものです。

▼看板が新たに付け替えられました。



## もりちゃんの足跡



▲1.5 大分市公設市場で初競りが行われました。毎年、青果市場では七草がゆが振る舞われます。



▲2.7～8 熊本地震で被災した国道57号と豊肥本線、南阿蘇村の現場は復旧作業中です。大分県と熊本県をつなぐ大動脈の早期復旧をJR九州にも要請しました。



▲3.5 日出生台米海兵隊移転訓練抗議の集会に吉田忠智党首と一緒に参加しました。



◀3.11 九州予防医学研究会に参加。熊本地震の被災地でご苦労された病院の皆さんのお話も伺いました。

### お知らせ

- ◇2017年の常任委員会は、引き続き福祉保健生活環境委員会に所属することとなりました。
- ◇各地域で意見交換会・座談会を開催します。少人数の集まりでも、お気軽にお声がけ下さい。
- ◇守永信幸後援会の会員を随時募集しています。年会費3千円です。守永の活動をご支援下さる方は、是非ご連絡下さい。

(連絡先：097-534-2021 担当：寺山 9:00～16:00)

### 編集後記

一般質問に立った後の活動報告は、どうしても長くなりがち。今回も6頁で編集しかけたのですが、ご協力頂きながら、縮めたところ。想いが伝わるか不安ですが、読み取っていただければと思います。▶国会では共謀罪の審議がスタート。犯罪を企て、準備にかかれば罰するというもの。捜査の段階で基本的人権の侵害が懸念されますし、政府にもの言えない社会となることが、とても怖い。▶そういう社会の準備にかかる陰が既に見え隠れするような気がします。